

花鳥風月・俳句

神棚に餅を供えてお正月

お正月笑顔合わして挨拶す

加藤 イサ子

落葉道児等あるきぬ分教場

山道の両側にふきのとう見ゆ

見渡せば児等ばかりのクリスマス

雪道を歩きはじめて国が知れ

曾我部 福石

秋深し山茶花の花誇らしく

布団干す今日は気分の良い日かな

明星 勲

たんぽぽや光暖か春告げる

雛壇に座りし少女可愛かな

少しずつ墓石磨いて彼岸来る

小野 弘幸

作業小屋は夢の城なり鏡餅

越智 和人

大根や駐車場の残り畑

神野 幸男

寒空に浮かびて消えし一句かな

空も海も眞青なりけり島の冬

鈴木 伊都美

雨降や畑の中のブロッコリー

一人食妣を思いの梅の味

篠原 高代

寝正月体重増加続きをり

吉を取る今年占ふ初句会

寒に入り安倍川餅が喉ならす

徳永 誠一

娘孫の声聞きたし恥ずかし初メール

落合 敦

振り返るたんび幾度も初昔

しばれると言へばしばれるなあと来る

冬天を仰ぎ呪文のやうな鳥

小田 慶喜

若菜野や孫の背を追ひ切らす息

欲張らぬ分相応の鏡餅

福笑ひばかりで暮らしたき一年

小田 和子

冬休み息子の部屋の明るさよ

めでたさや実千両を床の間に

海風ぎて航路白し冬日和

塗 堀 良子

伝統の七草粥の美味しかな

小春日や小川の散歩鯉遊び

湯豆腐のこんぶだしから湯けむりや

石井 トシ子

あめ玉を三つも食べて悪いとは

ねこ柳白い毛を出しせせらぎに

梅が咲き春はそこまで来たようだ

加藤 イサ子

凍晴や主治医の指摘胸にしむ

冬日和吉報有りて墓参する

風花や霊山仰ぎ手を合わす

小林 泰子